

道徳教育実践研究 推進校別事業実績報告書

研究のポイント

《研究主題》

中高連携した教育を通して、心豊かに生きる人間を育成する。

《指導の重点》

1. 生命を尊重する心を育てる。
2. 社会に通用する基本的な生活習慣や規範意識を育てる。
3. 地域を愛し、地域に貢献できる態度を育てる。
4. 自己実現を目指し、主体的に生きる力を育てる。

1 推進校の概要

学校名	所在地	電話番号	生徒数	備考
ぎふけんりつびこうとうがっこう 岐阜県立揖斐高等学校	岐阜県揖斐郡 揖斐川町三輪1852	0585-22-1261	386名	連携型 中高一貫教育校

2 研究課題

- I-⑦ 人間としての在り方生き方の自覚を深める道徳教育
- II-⑩ 児童生徒の実態の把握や道徳性の評価を生かした指導の改善
- III-⑫ 学校段階間、異校種間の連携体制の在り方

3 研究主題と設定理由

育成したい資質や能力

- ・「前向きに生きる自分」を確立していく向上心や協調性
- ・「知・徳・体」を兼ね備えた人間へと成長していく、自己形成力
- ・故郷を愛し、長上を敬い、公共物を大切にすること
- ・自己を見つめ、公正な自己評価ができる判断力

素朴で素直な心をもつ生徒が多く、控え目で向上心にはやや欠けるところがある。そのため、その日暮らしの中で、目標をもつことができないでいるために、一年次で学校を去っていく者が多く、進路指導の不十分さを感じている。しかし、心の平穏無くして、真の進路実現はないと思い、心豊かに主体的に生きる生徒を、どのように育てていくのかを考えていく必要がある。その上で、明るく楽しい学校生活を過ごすことを目的として、先の4本柱を重点に取り組んできた。

4 研究の概要及び特色

生命を尊重する心を育てる

①各種講話、ビデオ鑑賞

外部講師による人権講話や性教育講話を通して、社会の中での自分、集団の中での役割やマナーについて自己をふり返し、人としての在り方生き方を再確認する場を大切にしました。

また、「さくら（映画「さくら」制作委員会）」「まさかの未来（日本交通管理技術協会）」「感染爆発（NHK）」「予言（平和博物館を作る会）」等のビデオ、ドラマを通して、生命の大切さ、心の豊かさを見つめ直す機会を多くもうけた。



人権講話：「何気ない一言が人を傷つける、一つ一つの言動に責任を持って生きていけるようになりたい。」

性教育講話：「軽はずみな行動で何百人という赤ちゃんが中絶されており、大切な命が失われていることを学びました。将来、後悔のない明るい家庭を築いていきたいと思いました。」

社会に通用する基本的な生活習慣や規範意識を育てる

②学年スローガン



書道家（非常勤講師）による芸術を常に目にする事で、心の平静を保つことをねらいとする。

教室はできる限りシンプルに、掲示物は最小限に抑え、清潔感溢れる教室環境に努める。

和太鼓を聴くと心が落ち着くのと同様、日本古来の伝統芸能・芸術を良いものと



し、大切にしていきたい。

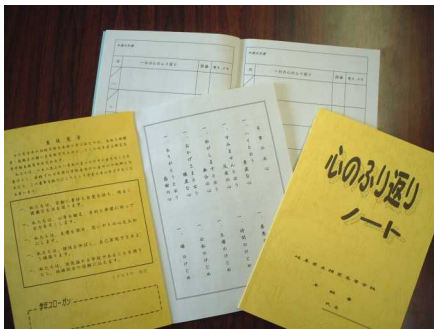
また、スクールミュージアムの開催(岐阜県美術館協力:移動美術館)等により、テーマ「心の中の光を見つけよう」のもと、文化に対する深い理解をもつための基礎学習・生涯学習として位置づけ、豊かな情操を養う場をもうけた。

③日常の五心と五つのけじめ

日常の五心		五つのけじめ	
一、ハイと云う	素直な心	一. 善悪のけじめ	
一、すみませんと云う	反省の心	一. 時間のけじめ	
一、私がしますと云う	奉仕の心	一. 立場のけじめ	
一、おかげさまと云う	謙虚な心	一. 公私のけじめ	
一、ありがとうと云う	感謝の心	一. 場のけじめ	

④心のふり返し（一言日記）

上の日常の五心と五つのけじめを含め、一日の生活や心の変化をふり返し、自己抑制と、自分自身による前向きな態度の育成を図る。



担任との会話・対話を一番の目的とし、交換日記としての役割も含め、日々の1対1での会話を大切に関係を深めることで、悩みの早期解決や、心の変化への対応に心掛けた。また、MEMO欄等の利用により、提出物やスケジュールにおける自己管理能力の育成にも結びつけることができた。

⑤朝読書



始業時、8時40分からの十分間を読書で向かえることにより、読書への関心は勿論のこと、落ち着いた一日の始まりへとつなげることができる。

図書館利用率upや、読書感想文コンクールへの挑戦、一行詩応募など、現代文、国語表現への興味・関心へとつながった。

地域を愛し、地域に貢献できる態度を育てる

⑥地域ボランティア

いびがわクリーン作戦をはじめ、揖斐川マラソンやいびがわ祭りにおける「おば太鼓」での参加など、地域活動への積極的な参加により、地域の活性化を肌で感じ取り、自らのあるべき姿を自覚し、協調性を持って前向きに取り組む姿勢を養うことができた。



自己実現を目指し、主体的に生きる力を育てる

⑦生徒主導型での活動の場

年間を通じて、行事における組織、計画、活動、報告は、できる限り生徒主導の形を取り、自ら学ぶ姿勢を大切にすることで自信へとつながり、より良いものへとステップアップを目指す姿へと変化していった。

(体育祭、文化祭、家庭クラブ年次大会、高校一日入学、委員会活動等)





⑧小論文指導

平成19年度

一学期中間考査

入学して約二ヶ月が過ぎました。高等学校の生活にも慣れ、新たな目標もできつつあることでしょう。

そこで、第一学年の目指す姿「格物致知」をふまえて、これからの自分についての決意を六百字以内で述べなさい。

一学期期末考査

「青春」とは、若くて元気な時代を意味する言葉で、元は春を表す言葉が転じて、人生における若く未熟で、しかしながら元気で力に溢れた時代を指すようになったものである。

語源は古代中国の思想から来ている春の異称であり、元々は季節を示す言葉である。この思想では、同様に夏を赤(朱)、秋を白、冬を玄(黒)に当てている。

「春」については、日本では古来より、青臭い、青二才といった言葉のように、若さ、未熟さをしばしば「青い」と表現してきた。

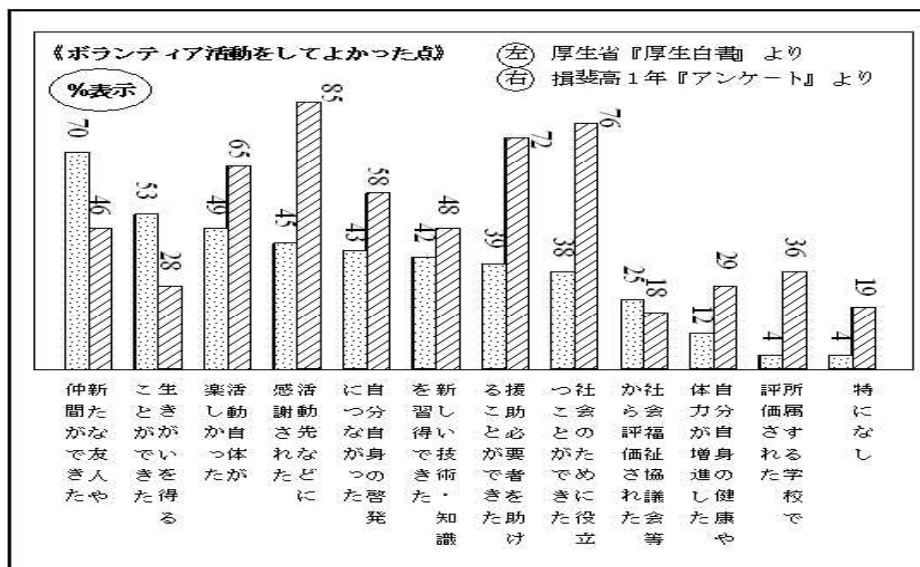
例えば「青二才」の「青」は未熟の意、「二才」は二才魚(稚魚)から転じて若者をさす。

[問] あなたの好きな季節や時代を選び、そこからイメージできる色や物、行事や思い出などについて、五百字以内で述べなさい。

二学期中間考査

「二十年後の自分」について、六百字以内で自由に書きなさい。

二学期期末考査



上は、先日のアンケートの結果と、厚生労働省の「厚生白書」との比較のグラフです。揖斐高の1年生のボランティア活動経験率は、97%とほぼ全員が経験をしています。結果から見てわかるように、本校の生徒は、「活動先に感謝された」「社会のために役立つことができた」など、純粋な心で達成感を感じていることが読み取れます。

グラフからわかることや、感じること、今後の自分のボランティアへの考え方について、五百字以内で述べなさい。

学年末考査

「平成19年度 駅と電車内のマナーに関するアンケート」結果

(資料提供 日本民営鉄道協会)

迷惑と感じられる行為は何ですか？	割合
1位 座席の座り方	15.2%
2位 携帯電話の使用	12.2%
3位 泥酔状態での乗車	12.2%
4位 乗降時のマナー	12.2%
5位 電車内で騒ぐ	10.8%
6位 ヘッドホンステレオの音漏れ	8.1%
7位 荷物の持ち方・置き方	7.8%
8位 女性の化粧	5.9%
9位 所構わず電車の床に座る	5.7%
10位 たばこについて	3.5%
11位 車内での飲食	3.3%
12位 環境美化に努めない人が多い	3.2%

鉄道の利用に関する左のアンケート結果をもとに、思うところを五百字以内で述べなさい。

平成20年度

一学期中間考査

日常の五心

- | | |
|-------------|------|
| 一. ハイと云う | 素直な心 |
| 一. すみませんと云う | 反省の心 |
| 一. 私がしますと云う | 奉仕の心 |
| 一. おかげさまと云う | 謙虚な心 |
| 一. ありがとうと云う | 感謝の心 |

新年度を迎え、高校生活にも慣れ、新たな目標も出てきた頃でしょう。

そこで、生活に欠かすことのできない「日常の五心」を振り返り、中から一つ選び、今後の自分の生活について思うところを五百字以内で述べなさい。

一学期期末考査

「敬語の使い方」や「言葉遣いの大切さ」について、六百字以内で書きなさい。

二学期中間考査

道徳教育講演会を終えて、次の中から一つ選んで書いてください。

- ①「ろうは個性である！」について
- ②講師「河合先生」に手紙を書こう
- ③手話通訳「伊藤先生」に手紙を書こう
- ④私達が暮らす未来社会への願い

二学期期末考査

「携帯電話にみる現代の人間関係」について、六百字以内で書きなさい。

年間5回の定期考査に位置づけ、文章構成・文章表現の練習を行う。点数化はせず、前3回においては辞書持ち込み可で行うなど、自己の向上を目的とし、力をつけることで、自信につなげていくものである。

自分の将来の展望を綴ったり、グラフを読み取り考察を必要とする課題となると明らかにペンが止まり、他の課題に比べ一人当たり70~100字少なくなってしまうという結果がでている。

この結果もふまえて、国語科、地歴公民科による協力のもと、「書く」ことに重点を置いた授業展開への工夫や、生活環境科による「レポート」を中心に高度な専門性への知識理解を目指した指導を大切にしている。

そして、1月には小論文指導（12時間）を行い、2月に外部小論文模試への挑戦をする。更に、3年生においては、6月にも外部小論文模試への挑戦をする。

⑨図書館応援隊

この催しでは、物づくり体験や講演、コンサートなどを生徒とともに企画・運営している。



(竹馬作り)

伝統的な工芸を学んだり手作りの楽しさを感じたり音楽を鑑賞したりすることで、先人の知恵を学び、物を大切に作る心を養い、豊かな情緒をはぐくむ幅広い経験の機会としている。

また、地域の方を講師に招くことも多く、体験の合間に揖斐の歴史や戦争体験を語ってもらうなどの交流の場となっている。

この二年間には、竹馬づくり体験、下駄・布わらじ作り体験、クリスマスリース・クッキーづくり、尺八コンサート、かるた大会、もちつき大会、絵本読み聞かせ、創作オルゴール&万華鏡作り、流しそうめん、クリスマスシャンソンコンサート、各種講演会など、様々なイベントを実施した。



(尺八コンサート)



(シャンソンと源氏物語の語り)



(カルタ大会)



(流しそうめん)



(体験談等講演会)



(絵本の読み聞かせ)



(下駄・わらじ作り体験)



(創作オルゴール&万華鏡作り)

(「サスケ」出演で有名な岐阜県消防士
竹田さんのパフォーマンスと人生対談等)

⑩体験学習、部活動交流（中高連携）

中高連携による生活環境科の体験学習や、部活動の体験・交流により、お互いに興味・関心を高め合い、高校生においては、後輩への指導・説明を通して、自信へとつなげることができた。



連携三校同時講演会 「ろうは個性である！」

連携校3校による同時講演会を、揖斐高校にて開催した。

日時：平成20年10月9日（木）13:55～15:10

講師：河合依子先生（十六銀行勤務、岐阜ろう劇団「いぶき」代表）

伊藤恵子先生（岐阜県聴覚障害者協会）



道徳教育 授業実践（道徳教育授業研究会）

揖斐高校にて道徳教育に関する公開授業、及び研究会を行った。「ホームルーム活動」や「教科を通しての道徳教育」の実践の中、授業者においても、日々の授業をふり返り、新たな発見を見つける良い刺激となり、今後の授業形態や展開方法など、工夫・改善への一助となる良い機会となった。

日時：平成20年10月24日（金）13:20～15:10

5 研究の評価

研究の成果

- (1) 「生命を尊重する心を育てる」においては、大人や親の言葉を軽視し、聞き流す傾向にある若者の意識に対し、外部の方からの講話やドラマを通して、真剣に見つめ直す姿が感じられた。「感動」の場面に接する機会が少ない現代の生徒達に、今後もこのような映画、ドラマの精選により、講話の充実を図り、生命の尊重、規範意識の向上を身につけていけるよう活用していきたい。
- (2) 「社会に通用する基本的な生活習慣や規範意識を育てる」においては、朝の心身の大切さを重視し、挨拶や、学習環境、読書への取り組みに心掛け、日々の終わりには、一日をふり返り、明日への前向きなこだわりを意識させた。しかし、やはり家庭での生活習慣が乱れ、遅刻する生徒の存在も見逃すことができない現状で、家庭との連携を強化していきたい。
- (3) 「地域を愛し、地域に貢献できる態度を育てる」においては、今回、経験による達成感や、充実感が強く感じられた。生徒から生徒へと広めていく中で、多くの生徒が参加し、経験できる場を提供していきたい。更には、中高連携を軸に後輩(中学生)との組織を含めた活動の場を設け、指導・説明を通してコミュニケーション能力を高めていきたい。
- (4) 「自己実現を目指し、主体的に生きる力を育てる」においては、様々な場面において生徒主導の形をとる中で、「自信」へとつなげることができた。
最初は、躊躇し、不満・不安がつきまとい、投げ出しそうな生徒もあったが、回を追う毎に向上心が芽生え、「次はこうしたい、ああしたい」と自ら考える姿が印象的であった。経験を重ねることで、基本的な生活習慣が向上したり、他者を思いやる優しい心が随所に見られ、明るい生徒、学校を楽しむ生徒が増えてきた。これを機に、コミュニケーション能力や自己指導能力をはぐくむ指導を更に充実していきたい。

今後の課題

人間の持つ五感において、最近のテレビ番組に象徴される（バラエティー番組での全字幕）ように、教育の場以外でも視覚が優先する現代で、日に日に聞く力、考える力が弱くなっている。また、社会全体が効率化や競走ばかりを強調するようになり、大人でも心のぬくもりや人と人との絆を感じにくくなってきたように、子どもたちを取り巻く社会環境はたいへん厳しいものになっている。

今回の実践研究において、本校教員が中学校の道徳授業の参観をし、中高合同の研究会を実施する中で、中学校の道徳教育の取り組みや大切さを学ぶことができた。また、逆に高等学校の「ホームルーム活動」や「教科を通しての道徳教育」を中学校の先生に参観してもらう機会を設け、共に実践力の充実に努めてきた。

中高の六年間は、人間形成においてたいへん重要な時期であり、連携型中高一貫教育を進める中で、多感な成長期に、中高連携での情報交換を密にする中で、個々の成長度合いを見極め、支援する適切な場面・時期を判断することが大切であると感じた。

この二年間、様々な実践を行う中で、「道徳教育」、「ホームルーム活動」の充実による豊かな体験こそが、新しい自己を発見し、真の友情を知り、人間としての正しい在り方生き方を見いだすことができると感じた。今後も、この経験を生かし、「道徳教育」から「キャリア教育」へと、生徒の成長に応じた豊かな実践を行っていきたい。

6 ホームページアドレス

<http://school.gifu-net.ed.jp/ibi-hs/>